

主な出来事

【内政】

- ジャン・フランソワ・ントウトウム・エマンPDG賢人会代表のPDG脱退
- リベラシオン市民フォーラムの開催
- 2016年予算案の閣議承認
- 選挙者リストの改訂作業開始

【外政】

- ボンゴ大統領による仏訪問
- ボンゴ大統領による印訪問

【経済】

- CEMAC域内の経済成長鈍化：2.5%
- 仏エラメット社によるMaboumine計画の中断
- ポストバンクのシステム中断
- 仏GFC社による海底鉱区の探鉱調査権限の獲得

【内政】

1 ジャン・フランソワ・ントウトウム・エマンPDG賢人会代表のPDG脱退

2日、首相及びリブルビル市長を務めたントウトウム・エマンPDG賢人会代表はPDGからの脱退を宣言し、「再結成に向けた民主・愛国運動」(Mouvement démocratique et patriotique pour la refondation)を設立した。(3日付GR)

2 アフリカ統治指数(モ・イブラヒム財団)

5日、モ・イブラヒム財団は、アフリカ統治指数を公表し、アフリカ54か国中ガボンは昨年27位から23位に上昇した旨発表した(100点中52.2点)。中部アフリカの統治指数平均は40.9点とアフリカ大陸で最も低く、2011年以降統治指数が低下している唯一の地域である。(6日付GR)

3 2016年予算案の閣議承認

8日に開かれた閣議において、2016年政府予算案が承認され、2016年予算総額は、2兆6260億CFAフラン(約40億ユーロ相当)となり、前年に比べ252億CFAフラン減額した。今後、予算案は議会で審議・採択される。支出額(投資分野)5,628億CFAフランは、ポールジャンティ及びオイエムのスタジアム建設、衛生・インフラ整備、光ファイバーの国内配備及び教育・保健システムの強化に充てられる。(9日付UN, 9日付GM)

4 リベラシオン市民フォーラムの開催

9-10日、アンゴンジエ地区のスタジアムにおいて、ガボン政府と共催で、仏リベラシオン紙が市民フォーラムを開催し、民主政における政治家・市民の役割、選挙プロセスの進展、グッド・ガバナンス・メカニズム報道のあり方など多岐に亘る分野で議論が行われた。ビリ・ビ・ンゼ通信大臣兼大統領報道官及びペー商業・中小企業・手工業・観光・サービス業開発大臣のほか、政府関係者、市民社会が出席した。(10日付、12日付UN)

#### **5 中部アフリカ汚職対策組織網会合の開催**

7-9日、リーブルビル市において、アフリカ経済委員会及び汚染対策国家機関の共催で、中部アフリカ汚職対策組織網(RINAC)に係る会合が開催され、会合に参加した国際機関は、RINACの機能遂行に向けて、中部アフリカ諸国に対し、財政面及びロジスティックの面から支援する旨発表した。(12日付GR)

#### **6 ガボン・米・独協力：ワクチン研究**

14日、アリ・ボンゴ大統領は、在ガボン米国大使、在ガボン独大使及びランバレネ医学研究センター(CERMEL)代表と会談し、マラリア及びエボラ・ワクチン研究の進展に係る意見交換を行った。(15日付UN)

#### **7 選挙者リストの改訂作業開始**

28日、内務・地方分権・安全・公共衛生省は、選挙リストの改訂を開始した。右改訂作業は12月13日まで行われる予定。ガボンの選挙権は、ガボン国籍を有する18歳以上の男女全てに与えられている。(29日付GR)

### **【外政】**

#### **1 ボンゴ大統領による仏訪問**

27日、アリ・ボンゴ大統領は、仏語圏経済フォーラム(於：パリ)に出席し、官民連携、教育、最新テクノロジー、環境、文化、科学など多岐に亘って議論を行った。オランド仏大統領ほか、サル・セネガル大統領、ラヴェルナリブ・マダガスカル首相、ジャン仏語圏国際機関(OIF)事務局長及び企業関係者が出席した。(27日付UN)

#### **2 ボンゴ大統領による印訪問**

28-29日、アリ・ボンゴ大統領は、第3回インド・アフリカ・フォーラム・サミット(於：ニューデリー)に出席し、ナレンドラ・モディ印首相と会談を行い、投資、経済協力、安保理改革等について意見交換を行った。また、アリ・ボンゴ大統領は、ガボンのデジタル周波数インフラ国家機関(ANINF)、印の社会改革インドセンター(ICST)及びMu Sigma社間の情報デジタル・プロジェクトに係る署名式典に出席した。(30日付GR、30日付UN)

### **【経済】**

#### **1 国際競争ランキング発表(世界経済フォーラム)**

9月30日、世界経済フォーラムは、2015年の国際競争力ランキングを発表し、ガボ

ンは世界ランキング103位、アフリカ大陸では13位という結果を発表した。ガボン、インフラ、保健、教育、高等教育・職業訓練、労働市場等で評価されている。(1日付GR)

## 2 CEMAC域内の経済成長鈍化：2.5%

中部アフリカ諸国銀行(BEAC)は2015年域内経済成長率予測値を発表し、油価低迷及び中部アフリカ地域の治安情勢悪化を受け、2.8%から2.5%に下方修正した。(1日付GR)

## 3 シンコク経済特区(フィナンシャルタイムズ)

フィナンシャルタイムズは、シンコク経済特区が、サブサハラアフリカにおける第2位の経済特区である旨発表した。同経済特区は、仏語圏地域及びCEMAC域内で唯一ランキング入りした経済特区である。(4日付GR)

## 4 アフリカ財政共同体閣僚会合の開催

2日、アフリカ財政共同体閣僚会合(於：パリ)にて、2014年の中部アフリカCFAフラン圏の経済状況に係る報告が行われ、世界経済が停滞する中、2014年のCEMAC域内経済成長は4.7%を記録するなど、中部アフリカ経済情勢に一定の評価がなされた。(5日付GR)

## 5 仏エラメット社によるMaboumine計画の中断

14日、仏エラメット社は、産業投資の抑制及びMaboumineの計画中断を決定した。Maboumine社はコミログ社の子会社として2005年に設立され、ランバレネ付近のMabouにおける鉱脈探査権を有している。(20日付UN)

## 6 ポストバンクのシステム中断

22日、リーブルビル市内のポストバンクは、資金不足を理由に2週間営業を停止した後、銀行業務を再開した。同銀行は、昨年11月、同様の理由で一時営業を停止している。(22日付UN)

## 7 ボンゴ大統領による仏ヴェオリア・グループとの会談

22日、アリ・ボンゴ大統領は、仏ヴェオリア・グループ社長と会談し、投資、水・電気の安定供給、若年層の雇用について意見交換を行った。(23日付UN)

## 8 仏GFC社による海底鉱区の探鉱調査権限の獲得

22日、第22回アフリカ・オイル・ウィーク(於：ケープタウン)において、ングブ・ガボン石油・炭化水素大臣は、仏GFC社に対し、ガボンの海底鉱区の探鉱調査権限を付与する旨発表した。同鉱区の競売に係るセミナーが、11月24日リーブルビル、26日パリ、30日にシンガポール、12月3日にヒューストンで開催され、石油・炭化水素省代表団及びGFC社技術グループが参加する予定。(28日付AFP、30日付UN)

出典：PR(大統領府公式HP)、UN(ユニオン紙)、GM(ガボン・マタン紙)、GN(ガボン・ニュース電子版ニュース)、AFP、GA(Gabonactu.com)、GR(ガボン・レヴュー電子版ニュース)、LG(ル・ガボン電子版ニュース)、GE(ガボン・エコ電子版ニ

—ス)